



法人企業景気予測調査

〔島根県の概要〕

令和6年7～9月期調査

令和6年9月12日

財務省中国財務局
松江財務事務所

本調査についての問い合わせ先
財務省中国財務局松江財務事務所
財務課長 飯野
電話 (0852)21-5231(内線 4630)



ざいちゅう

(調査の要領)

1. 調査の目的と根拠

企業活動の現状と見通しに対する企業経営者の判断を調査し、地域経済情勢をよりの確に把握するとともに、財政・経済政策運営上の基礎資料を得ることを目的に統計法に基づく一般統計調査として実施。

2. 調査対象企業

資本金、出資金又は基金（以下「資本金」という。）1千万円以上（電気・ガス・水道業及び金融業、保険業は1億円以上）の県内所在法人

3. 調査実施時点

令和6年8月15日

4. 調査対象期間（時点）

- (1) 判断調査 令和6年7～9月（又は9月末）の現状（見込み）
令和6年10～12月（又は12月末）の見通し
令和7年1～3月（又は3月末）の見通し
- (2) 計数調査 令和5年度の実績
令和6年度の実績見込み

5. 調査対象企業数及び回収状況

区 分	製 造 業			非 製 造 業			合 計		
	調査対象 企業数	回 答 企業数	回収率 (%)	調査対象 企業数	回 答 企業数	回収率 (%)	調査対象 企業数	回 答 企業数	回収率 (%)
大 企 業	2	2	100.0	4	4	100.0	6	6	100.0
中堅企業	10	10	100.0	24	24	100.0	34	34	100.0
中小企業	23	23	100.0	40	40	100.0	63	63	100.0
合 計	35	35	100.0	68	68	100.0	103	103	100.0

(注) 本調査において、大企業は資本金10億円以上、中堅企業は1億円以上10億円未満、中小企業は1千万円以上1億円未満をいう。

6. グラフの見方

- (1) 棒グラフは、回答企業数の構成比または金額の増減率を表す。
- (2) 折線グラフは、BSI（ビジネス・サーベイ・インデックス）を表す。BSIは、前期と比較した「上昇」又は「下降」等の変化方向別の回答社数の構成比から、経済動向を予測する方法。

[例] 「景況判断」の場合

前期と比べて「上昇」と回答した企業の構成比：40.0%
「不変」と回答した企業の構成比：25.0%
「下降」と回答した企業の構成比：30.0%
「不明」と回答した企業の構成比：5.0%

景況判断 BSI = 「上昇」40.0% - 「下降」30.0% = 10.0%ポイント

概 況

1. 景況判断

現状（令和6年7～9月期）の景況判断BSIは、5.8%ポイントと「上昇」超に転じている。

先行きについては、翌期（令和6年10～12月期）は「上昇」超幅が拡大し、翌々期（令和7年1～3月期）は「下降」超に転じる見通しとなっている。

2. 企業収益

(1) 売上高（電気・ガス・水道業及び金融業、保険業を除く）

令和6年度は、前年度比4.1%の増収見込みとなっている。

（製造業： 5.3% 非製造業： 1.0%）

(2) 経常利益（電気・ガス・水道業及び金融業、保険業を除く）

令和6年度は、前年度比6.1%の増益見込みとなっている。

（製造業： 8.9% 非製造業： ▲16.1%）

3. 設備投資

令和6年度は、前年度比▲18.4%の減少見込みとなっている。

（製造業： ▲25.0% 非製造業： 3.1%）

4. 雇 用

現状（令和6年9月末）の従業員数判断BSIは、42.2%ポイントと「不足気味」超幅が拡大している。

先行きについては、翌期（令和6年12月末）、翌々期（令和7年3月末）ともに「不足気味」超で推移する見通しとなっている。

1. 景況判断

(1) 現状判断

現状（令和6年7～9月期）の景況判断BSIは、5.8%ポイントと「上昇」超に転じている。

- ・業種別 【製造業】 17.1%ポイントと「上昇」超に転じる
- 【非製造業】 0.0%ポイントと「上昇・下降」が拮抗
- ・規模別 【大企業】 ▲16.7%ポイントと「下降」超となる
- 【中堅企業】 17.6%ポイントと「上昇」超となる
- 【中小企業】 1.6%ポイントと「上昇」超に転じる

(2) 先行き見通し

先行きについては、翌期（令和6年10～12月期）は「上昇」超幅が拡大し、翌々期（令和7年1～3月期）は「下降」超に転じる見通しとなっている。

- ・業種別 【製造業】 翌期：▲11.4%ポイントと「下降」超に転じる
- 【非製造業】 翌期： 16.2%ポイントと「上昇」超となる
- ・規模別 【大企業】 翌期：▲16.7%ポイントと「下降」超で推移
- 【中堅企業】 翌期： 0.0%ポイントと「上昇・下降」が拮抗
- 【中小企業】 翌期： 12.7%ポイントと「上昇」超幅が拡大

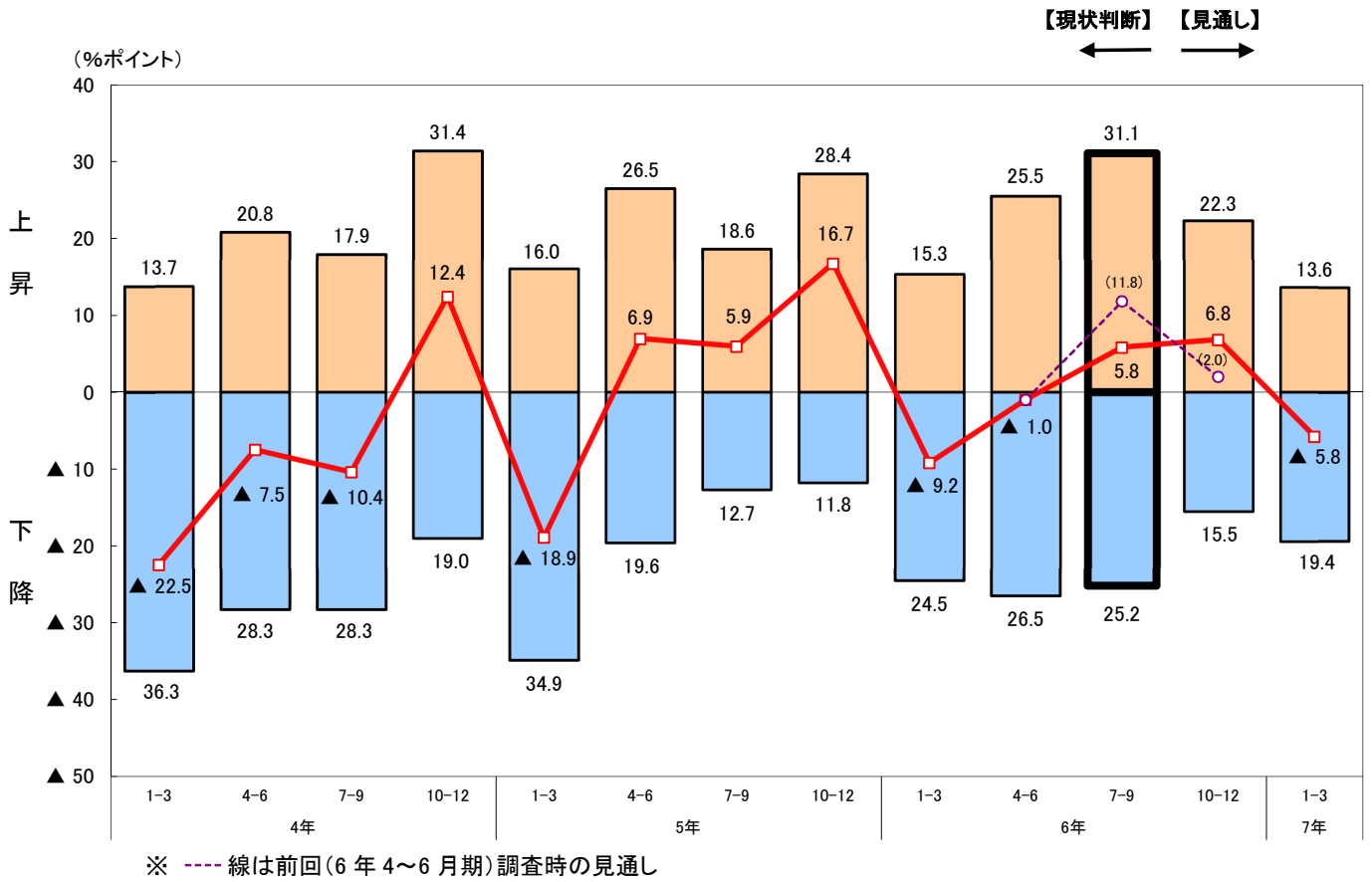
景況判断 BSI

(%ポイント)

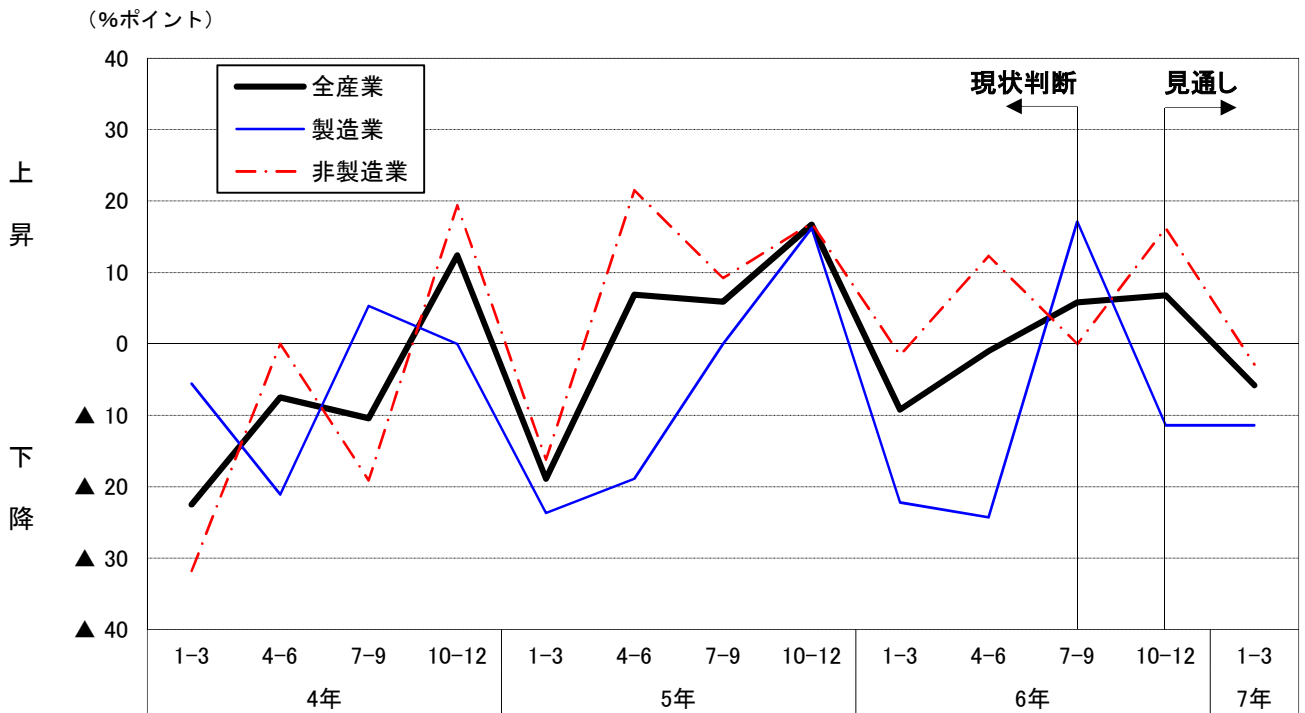
区分	6年4～6月 前回調査	6年7～9月 今回調査	6年10～12月 見通し	7年1～3月 見通し
全産業	▲ 1.0	(11.8) 5.8	(2.0) 6.8	▲ 5.8
製造業	▲24.3	(16.2) 17.1	(0.0) ▲11.4	▲11.4
非製造業	12.3	(9.2) 0.0	(3.1) 16.2	▲ 2.9
大企業	0.0	(▲16.7) ▲16.7	(▲16.7) ▲16.7	▲16.7
中堅企業	0.0	(19.4) 17.6	(0.0) 0.0	5.9
中小企業	▲ 1.7	(10.0) 1.6	(5.0) 12.7	▲11.1

※ () 書きは前回（6年4～6月期）調査時の見通し

景況判断 BSI の推移 (全産業)



景況判断 BSI の推移 (業種別)



2. 企業収益

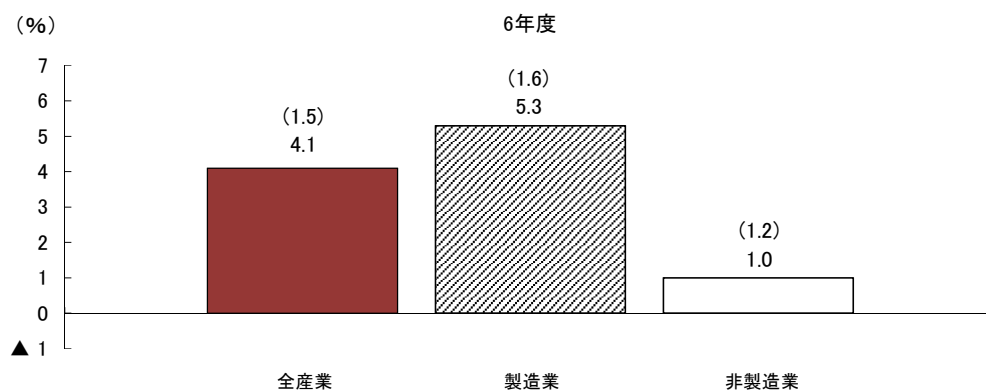
(1) 売上高（電気・ガス・水道業及び金融業、保険業を除く）

令和6年度は、前年度比4.1%の増収見込みとなっている。

【製造業】 窯業・土石などで減収となるものの、情報通信機械や鉄鋼などで増収となることから、全体では増収見込み（5.3%）となっている。

【非製造業】 リースなどで減収となるものの、小売や卸売などで増収となることから、全体では増収見込み（1.0%）となっている。

〔売上高の前年度比増減率〕



※()書きは前回(6年4~6月期)調査結果

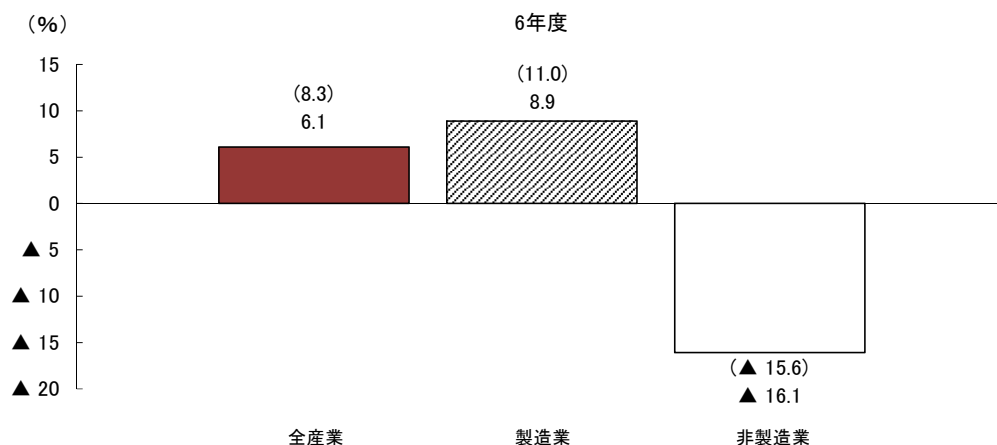
(2) 経常利益（電気・ガス・水道業及び金融業、保険業を除く）

令和6年度は、前年度比6.1%の増益見込みとなっている。

【製造業】 食料品などで減益となるものの、鉄鋼や生産用機械などで増益となることから、全体では増益見込み（8.9%）となっている。

【非製造業】 情報通信などで増益となるものの、建設やリースなどで減益となることから、全体では減益見込み（▲16.1%）となっている。

〔経常利益の前年度比増減率〕



※()書きは前回(6年4~6月期)調査結果

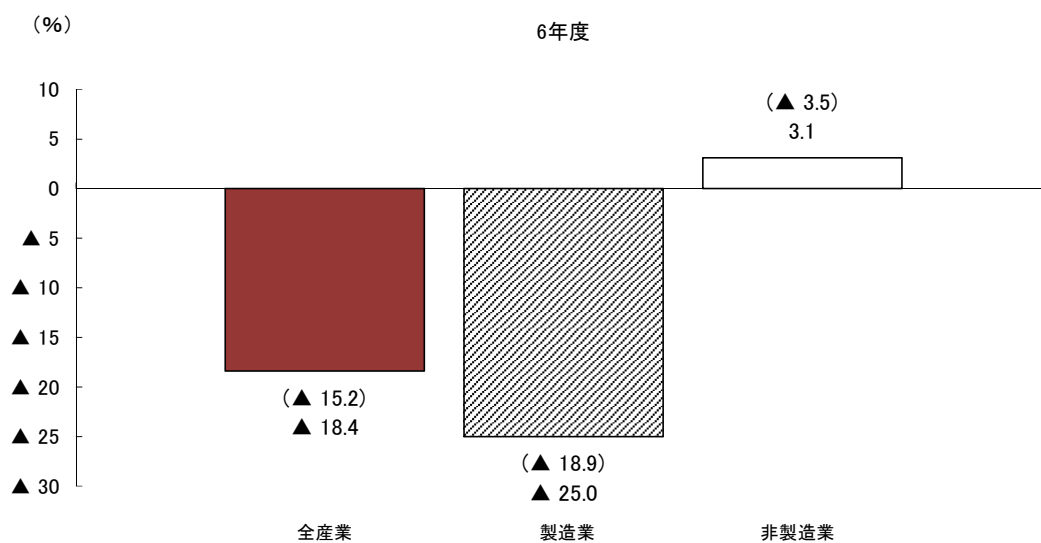
3. 設備投資

令和6年度は、前年度比▲18.4%の減少見込みとなっている。

【製造業】 鉄鋼などで増加するものの、情報通信機械や業務用機械などで減少することから、全体では減少見込み（▲25.0%）となっている。

【非製造業】 金融、保険などで減少するものの、小売や運輸、郵便などで増加することから、全体では増加見込み（3.1%）となっている。

〔設備投資の前年度比増減率〕



※土地購入額除き、ソフトウェア投資額含む。()書きは前回(6年4~6月期)調査結果

4. 雇 用

(1) 現状判断

現状（令和6年9月末）の従業員数判断BSIは、42.2%ポイントと「不足気味」超幅が拡大している。

- ・業種別 【製造業】 23.5%ポイントと「不足気味」超幅が拡大
- 【非製造業】 51.5%ポイントと「不足気味」超幅が縮小
- ・規模別 【大企業】 33.3%ポイントと「不足気味」超幅が縮小
- 【中堅企業】 33.3%ポイントと「不足気味」超幅が拡大
- 【中小企業】 47.6%ポイントと「不足気味」超幅が拡大

(2) 先行き見通し

先行きについては、翌期（令和6年12月末）、翌々期（令和7年3月末）ともに「不足気味」超で推移する見通しとなっている。

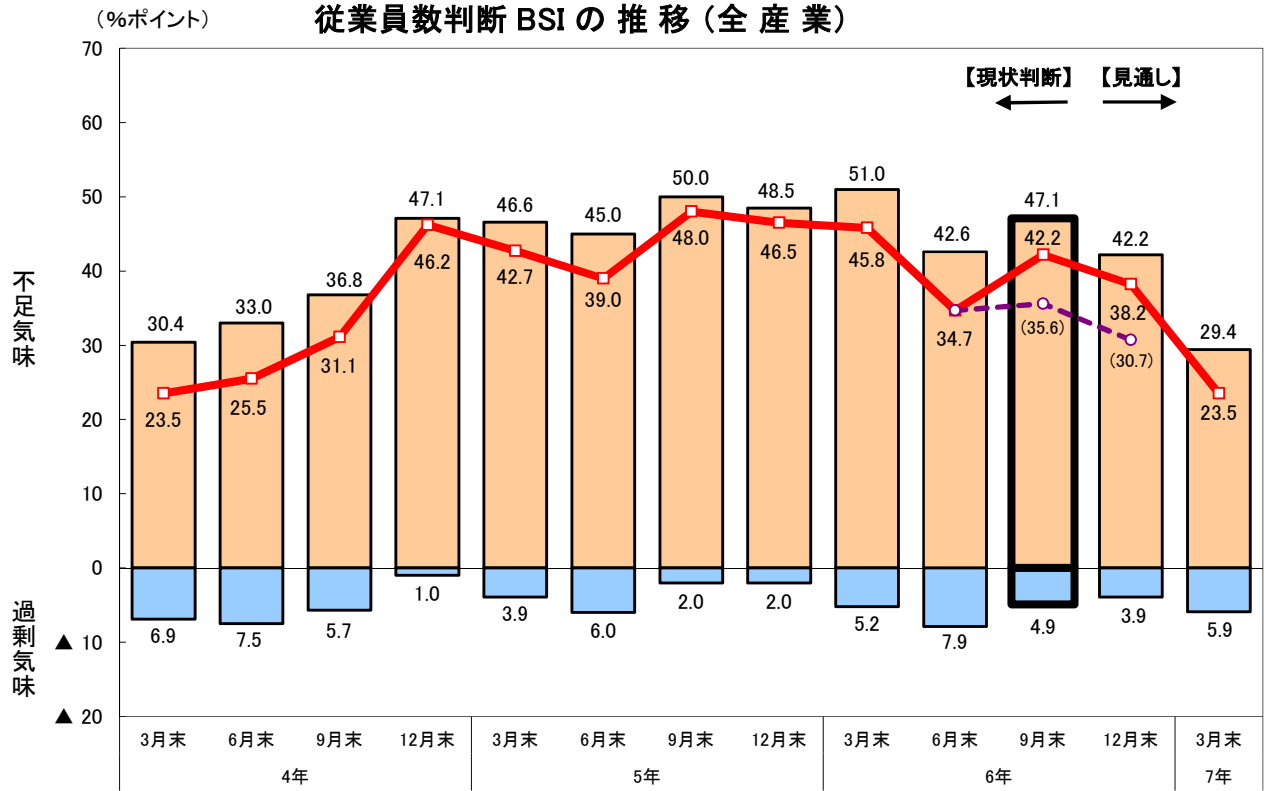
- ・業種別 【製造業】 翌期：20.6%ポイントと「不足気味」超幅が縮小
- 【非製造業】 翌期：47.1%ポイントと「不足気味」超幅が縮小
- ・規模別 【大企業】 翌期：33.3%ポイントと「不足気味」超で推移
- 【中堅企業】 翌期：24.2%ポイントと「不足気味」超幅が縮小
- 【中小企業】 翌期：46.0%ポイントと「不足気味」超幅が縮小

従業員数判断BSI

(%ポイント)

区 分	6年6月末 前回調査	6年9月末 今回調査	6年12月末 見通し	7年3月末 見通し
全 産 業	34.7	(35.6) 42.2	(30.7) 38.2	23.5
製 造 業	5.4	(13.5) 23.5	(10.8) 20.6	2.9
非製造業	51.6	(48.4) 51.5	(42.2) 47.1	33.8
大 企 業	50.0	(33.3) 33.3	(0.0) 33.3	0.0
中 堅 企 業	22.2	(22.2) 33.3	(22.2) 24.2	21.2
中 小 企 業	40.7	(44.1) 47.6	(39.0) 46.0	27.0

※ () 書きは前回（6年4～6月期）調査時の見通し



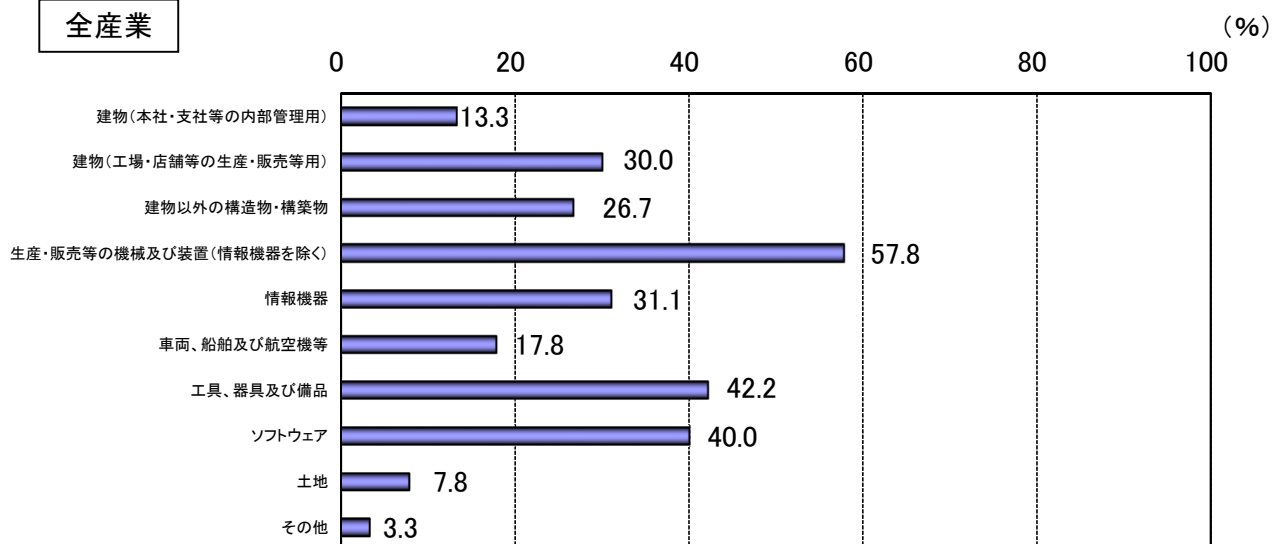
※ ---線は前回(6年4~6月期)調査時の見通し

5. 今年度における設備投資の対象

今年度における設備投資の対象は、「生産・販売等の機械及び装置（情報機器を除く）」が最も多く、次いで「工具、器具及び備品」、「ソフトウェア」の順になっている。

製造業では、「生産・販売等の機械及び装置（情報機器を除く）」が最も多く、非製造業では、「生産・販売等の機械及び装置（情報機器を除く）」及び「ソフトウェア」が最も多くなっている。

全産業



※10項目中3項目以内の複数回答による回答社数構成比

6. 今年度における従業員確保の取組

今年度における従業員確保の取組は、「賃金（初任給を含む）の引上げ」が最も多く、次いで「定年退職者の再雇用・定年延長」、「福利厚生の実施」の順になっている。

製造業、非製造業ともに、「賃金（初任給を含む）の引上げ」が最も多くなっている。

全産業

